

第2 教育研究団体の意見・評価

○ 全国公民科・社会科教育研究会

(代表者 沖山 栄一 会員数 約1,000人)

T E L 03-3333-7771

1 前 文

学習指導要領が新しくなって最初の共通テストとなった。これまで、学習指導要領が改訂されて最初の年の大学入試センターが出題する試験は易化する傾向があるとともに、学習指導要領の基本的な考え方を十分踏まえた出題となる傾向があった。今回もその傾向は顕著で、「公共」の出題内容は極めて平易であり、学習指導要領の基本的な考え方を十分意識して出題されている。後期中等教育の学習内容を理解した上で、高等教育において学ぶ基礎基本が身に付いているかどうかを確認し、基礎的基本的な確かな知識に基づき、広い視野から思考力判断力が備わっているかを問う出題となっている。出題分野の極端な偏りはない。以下、具体的に各問について意見と評価を申し述べる。

2 試験問題の程度・設問数・配点・形式等への評価

試験問題の難易度は平易であり、「公共」の授業を履修していれば容易に正答が得られると考えられる。設問数は、地理総合、歴史総合及び公共で各16問であり、解答時間に余裕はないものの決して答えられないほど時間がないわけではない。基礎的基本的な問いを短時間に正確に読み解いて答える学力を重視しているという意図が分かる。配点は基本的に各問3点配点で、思考力や判断力が問われる問いの配点を4点としているのも妥当である。形式は、基本的に、選択式であっても思考力や判断力を問えるように工夫してある。しかし、すべての可能性のある組合せを網羅的に示す選択肢の問いもあり、4択に絞って提示することに出題者側の出題のねらいを受験者に伝えるという意味があることを考えると、網羅的に選択肢を用意することが教育的なのかどうか、疑問は残る。

第1問 男女共同参画社会を大きな主題として、平等権に関する基礎的基本的な知識、図表の読み取りと分析の力が問われた。基礎的基本的な問いであり、平易である。

問1 憲法14条の理解を問うとともに、日本における男女雇用機会均等法から男女共同参画社会基本法へと向かう流れとその背景となった国際社会の男女平等の動きについて問う。平易。

問2 性別役割意識に関する資料二つの読解力と分析力を問う。表の数字や内容を丁寧に追いかければ正答は平易。

問3 女性議員比率の国際比較から読み取れる内容と主な国の制度についての基礎的基本的な知識を問う。平易。

問4 形式的平等と実質的平等及びアイヌに関する人権について基礎的基本的な知識を問う。会話文の中にウボポイの例が示され、フィールドワークへの示唆がみられる。

第2問 キャリア教育の視点から持続可能性、資金調達、外国為替、金融政策について基礎的基本的な知識を確認するとともに読解力や状況を理解した上で思考力を働かせて判断する問い。平易ながら大切な問い。

問1 社会関係資本と社会的共通資本についてのメモを読み、会話文の文脈から適当でない説明の部分を選ぶ問い。基礎的基本的な内容ながら考えて解く工夫がなされている。

問2 企業の資金調達についての基礎的基本的な知識を問う。一問一答に陥らないように文章

を読んで考える工夫がなされている。

問3 為替レートが円高になったという想定で日本からアメリカに輸出する商品の現地価格がどう変化するか考えて計算して解く基礎的基本的な問い。

問4 金融政策についての基礎的基本的な知識を問う。単純に知識を問うことのないように、文章を読み、文脈をたどらないと正答に至れない工夫がなされている。

第3問 裁判所の役割を調べるといふ状況を設定して、衆議院議員総選挙における一票の格差や最高裁判所が下した違憲判決、裁判所の役割、犯罪と刑罰の関係について、会話文の文脈を理解して計算する技能や判決内容を理解する思考力などを問う。

問1 表と会話文それぞれの読解に基づき、選挙制度についての基礎的基本的な知識を確認し、表から一票の格差を計算して答える。平易。

問2 最高裁判所が下した違憲判決の内容について基礎的基本的な知識を問う。尊属殺人重罰規定について、女性の再婚禁止期間について、一票の格差と選挙無効について問う。平易。

問3 裁判の種類、憲法に規定される最高裁判所の位置付け、憲法の人権規定における裁判を受ける権利について基礎的基本的な知識を問う。平易。

問4 冤罪と再審、刑罰の目的としての再犯抑止や犯罪予防について、会話文の文脈を理解して考えて解く工夫がなされている。基礎的基本的な知識を問うとともに思考力や判断力を問う。

第4問 公共空間の持続的形成的問題。平易。

問1 コミュニケーションや多様性、複数性についての基礎的基本的な知識の確認と確かな知識を活用した思考力と判断力を問う。

問2 内閣府調査に基づき、「時間のゆとりの有無」「自由な時間の過ごし方」から読み取れる内容を三つの資料文と突き合わせながら読み取れる内容として適切なものを選ぶ問い。

問3 哲学カフェに参加したという状況を設定して、実は帰納法か演繹法かという方法論について正しく理解できているかを問う。平易ながら大切な問い。

問4 公共空間の持続的形成的問題について、対面と非対面という視点から具体例を考え出す思考力を問う。

3 総評・まとめ

受験者が基礎的基本的な知識を確認し、受験者が自ら獲得した知識を活用し、思考力や判断力を働かせ、今日に生きる私たちが抱える社会的な課題をいかに解決したらよいかを当事者意識をもって思考する力があるかを問うとともに思考しているかを問う問題である。問題はいずれも学習指導要領に示されている「公共」で学習する範囲内であり、極端な難問や奇問はない。問題のリード文が高校生が調べたり学んだりしている状況から示されることが多い。これは高大接続を意識してのことであろう。しかし、高校生が学んだ内容を理解していれば読める1ページ程度の文章を読ませて考えさせるというセンター試験で長く出題されていた形式も復活しても良いのではないかな。ものを考えることの大切さを受験者に示す意味で思考力判断力を問う重厚な問題が一つあってもよいだろう。後期中等教育の学習が高等教育における研究へどう発展できるのかを高校生に示すことも教育的配慮であろう。

4 今後の共通テストへの要望

共通テストの高校現場への影響力は極めて大きい。出題者の意図を超えて出題者の意図とは異なったメッセージとして教育の現場に想定外のメッセージを伝えることになる場合さえある。それだ

けに、後期中等教育の健全な発展に資する質の高い問題を作成し続けてもらいたい。安易な問いは避け、基礎的基本的な知識を理解しているか、理解した知識を用いて大学で学ぶにふさわしいだけの思考力や判断力があるのかを判断できる問題を作成し続けてもらいたい。さらに、大学側から高校生へのメッセージとしての役割があることを踏まえ、リード文については高等学校の学びを想定したものだけでなく、エッセイとしても読み込むと社会科学の基本的理解が広がるような優れたリード文による問題も期待する。